

# 保温だけでなく、血行循環を促すムートン、日本エコレザーの認証タグを積極活用する

出席者

(株)舩田常務取締役

舩田 順一 氏

NPO法人日本皮革技術協会 副理事長

稲次 俊敬 氏

上質なムートン寝具は身体を点で支え、血流を妨げない働きがある。

**稲次** 日本エコレザー基準では、5年毎に更新することが規定されています。昨年からの更新時期を迎えるものが出てきましたが、更新される件数が少なく新たな課題となっています。「日本エコレザーを使って、商売になるのか」といった声もありますが、もちろん成功している会社もあります。今回は、その成功事例として、奈良の毛皮専門のタンナーであり、ムートンの寝具などを製造する(株)舩田の舩田順一常務にご登場いただきました。

最初に、日本エコレザーの認証が市場展開の上でどれほど効果的なのか、お聞きしたいと思います。

**舩田** 日本エコレザーの認証タグを付ける、付けないは、取引先のお客さまにお任せしていますが、当社はいろいろな面で活用させていただいています。

当社はタンナーとして昭和30年代後半からムートンを扱って来ていますが、製品までつくるようになったのは昭和57年からです。製品は寝具のほか、バッグや野球グローブの素材や工場を使う研磨用パフなども供給しています。

寝具用ムートンでは、私の父が「安らかな眠りにつながるもの」として取り組んできました。上質なムートンは本当に快適な眠りを与えてくれる効果が高いことがわかっていきます。科学的な性能評価をしたことが、品質の底

上げにつながっています。

**稲次** ムートンは床やカーシートなどの敷物、ブーツなどによく使われており、肌触りがよくて暖かいということが一般的な認識だと思います。ムートンの特徴を詳しく教えてください。

**舩田** 上質なムートンは、保温性のほかに、大きな特徴として、“体を浮かせる”というところにあります。厳選された羊毛は一本一本がコイル状になっていて、弾力を持つバネの働きをしています。この羊毛一本一本が無数の点で身体を支えることによって体圧を分散します。また、その点と点の間には無数の隙間が存在し、この部分には体圧がかからないため、毛細血管の



## 日本エコレザーの6つの条件

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※染色堅ろう度とは、染色された色が摩擦や使用条件にどれだけ耐えるかの指標





稲次俊敬氏



舛田順一氏

血流維持をサポートしていることになりませう。

当社ではこのムートンを新生児や入院患者のシーツ用に提案しています。生後間もない赤ちゃんは、まだ自分自身では寝返りはできません。このため、血流が悪くなり、うっ血して、床ずれ状態になります。普通は抱っこすれば、血流は良好な状態に戻ります。新生児が1、2時間おきに泣くのは血行不良を訴える合図なのです。

ヨーロッパやオーストラリアでは、ムートンは昔から赤ちゃんの寝具として使われています。これは、経験的にムートンの効用がわかっているからです。

**稲次** 確か、それは、科学的にも実証されていますね？

**舛田** 稲次さんが所属されている大阪府立産業技術総合研究所で生活科学・感覚計測を行っている研究室と共同研究を行い、ムートンの褥瘡（じょくそう）予防効果について詳細に調べていただきました。ムートンを敷いた時とそうでない時の赤血球の量から、血流量がどれだけ違うのかを、計測してもらいました。この結果から、上質なムートンは床ずれ予防に大きな効果があることがわかりました。

私の経験ですが、祖父が入院したとき、床ずれで背中が変色してしましました。そこで、シーツをムートンに取り替えたところ、黒ずんでいた背中が一晩で元の状態に戻りました。ムートンによって、血流が正常に保たれるようになったのです。

自然な寝返りができる健康者がムートンのシーツを使えば、寝返りの回数を減らすことができます。

ムートンブーツは、非常に優れた製品なのですがインソール部分の品質が低いものが多く、保温吸湿効果以外の効能があまり期待できません。生産者はユーザーのさらなる満足をしつかり考え、インソールにこそ良質なムートンを使って頂きたいものです。

ムートンは夏は涼しく冬は暖かい、天然のエアコンです

**稲次** ムートンの原皮は羊ですね。品質の違いはどういうところに出ますか？

**舛田** 単位面積あたりの毛の総重量が重いもの、つまり毛の密度が高く、太くて剛毛なものほど身体を支える働きが大きいですね。ただし、こうし

た特性を発揮できる素材は限られています。当社で使っている羊は、獲れる時期が限られおり、生産量も限られています。

産地はオーストラリアの東南部にあるヴィクトリア州ベンディゴ市の近郊にあります。これまで数々の国や地域の羊を見てきましたが、高品質なものはこの産地に限られています。

その地域でも当社が取引しているのが「アンシヨーンラム」と言われる、生後約3〜5カ月未満の羊です。二度も毛を刈り取ったことのないもので、春に生まれて夏に取引されるスプリングラムスキンの原皮を使っています。毛はタンパク質のプロックがしっかりと積み上げられた状態で上に伸びており、しっかりと支える力があります。

**稲次** 私も車のシートにオールシーズン使っていますが、夏でも暑苦しいと思っただけでなく、さらに吸湿性が優れていて、夏場はよく汗を吸ってくれます。洗濯もできるので、衛生的で使い勝手がいいですね。

**舛田** 当社では「夏は涼しく、冬は暖かい」というコピーを使っています。いわば天然のエアコンです。梅雨時は特





工場入口に「日本エコレザー基準認定品」と表示



上質なムートンは指が深く沈み込む



倉庫に積み上げられた原皮

に快適です。また、冬場は化繊のホットカーペットの上でもベトつかず、湿度が一定に保たれており、サラツツとして肌触りに優れていて心地よいという特徴があります。また、先の共同研究の成果から、難燃性、防染性、抗菌・消臭効果があるほか、ホルムアルデヒドや二酸化窒素などの有害化学物質を吸着するという空気清浄作用もあることがわかりました。

### 「日本エコレザー」認証タグは、安心、安全の日本製として訴求

**稲次** 御社のムートンは、日本エコレザー基準の認証を受けられて4年が過ぎました。今年は更新時期になりませんが、当初から安心・安全ということを強く意識されていたのでしょうか？

**舛田** ムートンの寝具に有害な薬剤を使うということは、得意先やユーザーを裏切ることであり、すぐに信頼を失ってしまいます。

実は、市場に出回っているムートンのほとんどが中国製です。中には最終の仕上げだけを国内で行った日本製というものも出回っているのが現状で

す。

そのような中で、日本エコレザーの認証タグは、認証基準にパスした安心・安全な製品であることの証明になると同時に、生産者のトレーサビリティがとれ、本当の日本製であることが分かります。今後も認証タグを積極的に販促ツールに活用する考えです。

ただし、上質なムートン製品は店頭に置いてあるだけでは売れる商品にはなりません。価格的には高いものであるので、販売員がこの優位性を消費者に適切に説明しなければなりません。当社の「MDM」ブランドのムートンは、原皮の厳選はもちろんのこと、製造にはじっくりと時間を掛け、手作業によつて丁寧に製造しています。修理やケアなどメンテナンスにも対応しており、グレアムはほとんどありません。

**稲次** 今春から特定芳香族アミン族を生成する染料の使用規制が始まりますので、介護用品やベビー用品などさらに安心・安全なものへの関心が集まることでしょうか。

エコレザーは、一般の革と見た目は区別がつかないので、安心・安全な革であることを伝えることは工夫が要ります。舛田さんの日本エコレザー

基準の認証を取得されたムートン製品は訴求力が高いと思います。

**舛田** エコレザーの基準は環境面のウエイトが高いと思いますが、ウェットブルーから日本で手がけたものであるというカテゴリーを設ければ、販売する上では差別化できてありがたい。

これはTPP対策にもなりますし、こういったお墨付きがあれば、エセ日本製の横行も防げるかと思えます。

**稲次** 日本製についていえば、一般社団法人日本ファッション産業協議会では、国内認証工場で作られたものであれば、「J∞ QUALITY（ジェイ・クオリティ）」として認定するという制度が始まりました。ただし、この制度では、純正国産商品に認証を与えるもので、品質を保証するものではありません。

このJ∞ QUALITYの認定を皮革製品にも広げるべきだと考えています。日本エコレザーにJ∞ QUALITYをプラスすることによつて、品質が保証された安心・安全な純正国産商品ということを周知できるように努めます。

本日はありがとうございました。